学校番号	3009

令和８年度　工業科（建築系）

教科	工業科（建築系）	科目	(学)建築応用製図	単位数	２単位	年次	３年次（深化）
使用教科書	なし						
副教材等	プリント（学校作成）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

手描きによる設計製図は建築士になる要件として必須能力となります。二級建築士設計製図試験にも出題される木造及び鉄筋コンクリート造の配置図兼１階平面図、2 階平面図、3 階平面図、立面図、断面図、断面詳細図、矩計図の特徴を理解し、指定時間内に作図できる能力を身に付けましょう。

2　学習の到達目標

木造と小規模（～200 ㎡）鉄筋コンクリート造の住宅・各種商業施設等のエスキス、プランニングのチェック力と作図能力を身に付ける。エスキス・プランニングでは動線計画をはじめ、各種要求室の特徴を理解し、適切な空間構成を導き出すための思考力と判断力を育成するとともに、意図を的確に伝える表現力を養う。また作図においては、平面図の構成と表現方法を理解し、構造物及び要求スペースの作図に必要な寸法を把握し、不適格・不整合の起きにくい作図手順を身に付けることで、論理的かつ精度の高い図面作成能力を育成する。さらに、課題に主体的に取り組む姿勢を重視し、建築計画・設計に対する探究心を深めることで、継続的に学び続ける学びに向かう力を育成する。加えて、講評等を通じて他者の考えを尊重し、より良い空間づくりに向けて対話できる人間性やコミュニケーション能力の涵養も目指す。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	木造及び鉄筋コンクリート造に関する基本的な知識を身に付け、各種図面の役割と相互関係を合理的に読み取ることができ、その技術を適切に活用し作図する能力を身に付けている。	建築物の構造及び各種用途に必要なプランニング能力の基礎的な知識と技術を基に、木造及び鉄筋コンクリート造の作図方法を判断し、適確な不整合のない作図法で表現する能力を身に付けている。	建築設計技術者に必要な能力について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取組み、実践的な態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	鉄筋コンクリート造	1. 鉄筋コンクリート構造の作図法 1)鉄筋コンクリート構造の作図手順 2)鉄筋コンクリート構造の作図応用知識 2. 鉄筋コンクリート構造の製図 1)配置図・平面図 2)立面図・断面図 3)断面部分詳細図・矩計図	a:鉄筋コンクリート造に関する基本的な知識を身に付け、各種図面の役割と相互関係を合理的に読み取ることでき、その技術を適切に活用し作図する能力を身に付けている。 b:建築物の構造及び各種用途に必要なプランニング能力の基礎的な知識と技術を基に、鉄筋コンクリート造の作図方法を判断し、的確な不整合のない作図法で表現する能力を身に付けている。 c:建築設計技術者に必要な能力について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取組み、実践的な態度を身に付けている。	学習状況 観察 製図課題 内容	学習状況 観察 製図課題 内容	授業準備 状況 授業参加 状況 製図課題 提出状況
後期	木造	1. 木造の作図法 1)木造の作図手順 2)木造の作図応用知識 2. 木造の製図 1)配置図・平面図 2)立面図・断面図 3)断面部分詳細図・矩計図 4)小屋・各階梁伏図	a:木造に関する基本的な知識を身に付け、各種図面の役割と相互関係を合理的に読み取ることでき、その技術を適切に活用し作図する能力を身に付けている。 b:建築物の構造及び各種用途に必要なプランニング能力の基礎的な知識と技術を基に、木造の作図方法を判断し、適確な不整合のない作図法で表現する能力を身に付けている。 c:建築設計技術者に必要な能力について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取組み、実践的な態度を身に付けている。	学習状況 観察 製図課題 内容	学習状況 観察 製図課題 内容	授業準備 状況 授業参加 状況 製図課題 提出状況

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度